

**令和3年度 第3回 明石市文化財保存活用協議会
議事概要**

I. 日 時：令和3年11月26日（金）10:00～11:30

II. 場 所：ウィズあかし 学習室 703

III. 出席者

区分 (法第183条9第2項)	氏名	所属・役職	備考
明石市（第1号）	吉田 貴之	明石市政策局広報部長	
兵庫県（第2号）	甲斐 昭光	兵庫県教育委員会文化財課長	
学識経験者（第4号）	村上 裕道	京都橘大学 教授	会長
	森本 眞一	神戸学院大学 非常勤講師	副会長
	竹内 利江	神戸学院大学 非常勤講師	
商工関係団体（第4号）	西川 勉	明石商工会議所 事務局長	欠席
観光関係団体（第4号）	樫原 一法	明石観光協会専務理事	
その他教育委員会が必要と認める者（第4号）	西海 英延	文化財所有者：宗教法人住吉神社 宮司	
	藤本 庸文	明石市連合まちづくり会協議会会長	
オブザーバー	山下 史朗	兵庫県地域創生局地域創生局参事	

事務局：明石市市民生活局文化・スポーツ室

(岩崎充臣市民協働・生活部長、小林秀史文化・スポーツ室長、
稲原昭嘉文化財担当課長、田川聡司歴史文化財係長)

明石観光協会（木村公輔事務局次長）

明石政策局シティセールス推進室シティセールス課（藤田幸子室長兼課長）

明石市都市局都市整備室都市総務課（谷口祐二課長）

明石市教育委員会学校教育課（金井一郎課長）

事務局補佐：株式会社スペースビジョン研究所（宮前洋一、宮前保子、岸本聖矢）

傍聴者：なし

IV. 資料

- ・次第
- ・関係省庁事前協議の対応
- ・文化財調査官への照会の対応
- ・明石市文化財保存活用地域計画（案）
- ・明石市文化財保存活用地域計画概要版（案）
- ・明石市文化財保存活用地域計画シンポジウムの実施概要
- ・明石市文化財保存活用地域計画作成スケジュール

V. 議事概要

1. 開会

2. 議事

【議事（1）明石市文化財保存活用地域計画（案）について】

村上会長：この協議会も大詰めを迎えた。文化財保護審議会のご承認をいただき、パブリックコメントもすみ、国との協議も2回目を含めて終了した。本日は事務局から出来上がった明石市文化財保存活用地域計画（案）について報告していただく。計画内容を大きく変えることは進行上できないため、最終確認をしていただく場として協議会を進める。

—資料説明（略）—

甲斐委員：98頁の図6-3について、重点区域の南東部の地図が切れており、下図が白紙になっている。差し替えられないか。

また、118頁の図8-1について「団体」の部分が概要版では「団体・専門家」となっている。概念としては「団体・専門家」で統一したほうがよろしいのではないか。

事務局：検討の上修正する。

村上会長：13頁の図1-7は国勢調査人口の発表があつて（仮称）あかしSDGs推進計画の検討の結果を受けて更新するとのことであるが、3/20のシンポジウムに合わせた印刷製本の期限の前に差替えを終えられるか。（仮称）あかしSDGs推進計画の検討前にフライングしてグラフのみ掲出することはできないため、計画に大きな齟齬がないならばそのまま更新しないことも考えられる。印刷製本の期限から逆算して、図を更新する期日を決めておくこと。

事務局：了解した。

【議事（2）明石市文化財保存活用地域計画概要版について】

村上会長：今回が委員のご意見やご希望を反映させることのできる最後の機会であるので、意見がある箇所についてはすべて発言していただきたい。

—資料説明（略）—

村上会長：まず顔となる明石城の写真からご意見をいただきたい。

山下委員：明石城では樹木の伐採が行われている。石垣はきれいに見えてきたが、まだバランスが悪いと思う。

村上会長：城の空間はそもそも防衛のために木を排するが、明治時代以降の公園化によって木々が生い茂る空間が市民にとって常態となった。市民に説明する機会があつたら、そもそも城の空間は木がない状態が基本としてあり、公園としての樹木が配されているとお伝えしてはと思う。

山下委員：樹木を伐採するにもエリアを分けて実施してみて、市民の理解を得てはどうか。

村上会長：明石城の写真構図について申し上げる。巽櫓・坤櫓に隣接する石垣形状は違うため、ゆとりなく写真を切りとると違和感がある。天守台は必ず含めると良い。巽櫓の東側を含め、現状の写真の上下を5mm程度削り、横にのびる土塀の線を強調してはどうか検討すること。

村上会長：防災・防犯方針に関して、5つの基本方針のように番号を振らずに特出しした形で記載することによろしいか。確認までに聞いた。

事務局：防災・防犯方針は5つの基本方針とは別に記載する。

甲斐委員：1頁下の模式図について、「市民」から「行政」と「団体・専門家」に連携をしめす矢印が伸

びているが、「行政」と「団体・専門家」は相互に連携していないのか。計画書本文の図では3者がそれぞれ連携していると図示されている。「行政」と「団体・専門家」をつなぐ矢印が抜けていないか。また、連携は両矢印にするべき。

甲斐委員：「行政」の中の『近隣自治体』という記述は本文にはないが、概要版では記載するのか。

村上会長：「行政・市民・団体・専門家の連携を進めます」とタイトルを振っているので、連携を示す矢印を用いずに、角を丸くした四角形に3者を並べるだけでも連携していることが示せるのではないか。『近隣自治体』を概要版に記載するかという点であるが、地域計画本編は明石市公式の計画であり、本文では書きにくい、概要版は市独自のパンフレットであるので、明石市の意向を載せるという意味ではよい。措置のひとつに、海からの史跡めぐり周遊ルートづくりとして、神戸市や淡路市に所在する文化財を描画した図を挿入しているため、それを文章化すると『近隣自治体』であると説明できる。

村上会長：2頁について、船上城と太寺廃寺塔跡の写真は差し替えると事務局から報告があったが、他の部分、特に市民によく見られる写真等についてご意見はないか。

村上会長：魚住の泊跡の写真はこのままでよいのか。

竹内委員：もう少しアップにして碑を大きくしてはどうか。

西海委員：裏に魚住の泊の説明が書いてある。

村上会長：表を写した写真のままにしておくか、説明が書いている裏の写真に差し替えるかどちらにするとよいか。

西海委員：道も狭くこの碑の前にたどり着くまでに案内標識もないため、行ってみようかとならない。写真としては表から撮影したアングルのままでよい。

竹内委員：白沙荘の写真があるが、概要版を見る限りではだれの何かわからないため、古代山陽道（福里地点）のように（ ）を用いて説明を入れてはどうか。例えば、白沙荘（橋本関雪の別邸）とする。

山下委員：上から二つ目のブロックに「■■明石市の5つの地域は」と記載されているが、5つの地域がどの場所を指すのかわかりにくい。

村上会長：地図では灰色の線で5つの地域を分けているが、地域の名前が入っていない。行政区界として正式に使われている言葉か。

吉田委員：地域区分について、人口統計等では明石東部と西明石をあわせて本庁地区とし、他の大久保・魚住・二見をあわせた4地域の区分を用いている。

村上会長：文化財地域計画独自で、歴史文化の実態を考えた分け方であるということがわかる説明が必要である。3頁に5地域の名称が記載されているが、最初に出てくる2頁に地域名が記載されていたほうが良いので検討すること。

藤本委員：1頁の明石城の写真について、横に広げるイメージでよいか。明石城を櫓の高さから写した写真は平坦な印象になり、明石城の厚みが感じられない。我々が認識しているのは少し高いところになると神戸市西区神出の雄岡山から雌岡山がシンボリックにあり、バックヤードをもった厚みを持ったイメージである。この写真は薄っぺらくみえてしまい、これでいいのかと思った。

竹内委員：この明石城の写真はよく見る構図で見慣れている。もう少し違う角度で見た明石城の写真があればよい。

事務局：大手門復元の検討の際にドローンで撮影したものがあるため、使える画像があるか検討する。

事務局：概要版では計画本文とは表現を変え、市民に呼び掛ける言い回しにしている。このあたりのことについてご意見をいただければ。

村上会長：市民に分かりやすい表現であり、この表現でよい。

村上会長：地図の外枠に線は必要か。

竹内委員：不要である。全体の余白が多いため、地図と写真を大きくし、余白を狭める。地域を分けている線と同じうすいグレーの色で5つの地域名を地図の邪魔にならない場所に表記すると理解しやすい。

藤本委員：陸地と海の境がわかりにくい。海を全体塗るのではなく、ベルトのような線でもよい。

村上会長：グラデーションを用いるなど、煩雑にならない表現をすること。

竹内委員：凡例に都市景観形成重要建築物を加えてはどうか。写真の一番目に白沙荘が入っているが、指定等文化財でないのになぜ入っているか説明が足りないと思う。

村上会長：都市景観形成重要建築物について、連動する取り組みである旨を計画書本文には記載しているが地図には記載していない。本文では地図に表示しなくてもよいが、概要版は15件程度のため表示を検討すること。また、凡例に加える必要がある。白沙荘だけでなく卯月邸も都市景観形成重要建築物であり写真を載せている。積極的に評価しているとして説明が必要である。

西海委員：住吉神社の能舞台であるが、5月1日に能楽会があり、実際に能舞台で能が行われている情景の写真がある。

村上会長：現役で使われていることが大切であり、その写真に差し替えるのが適切である。文化財が主体になりながら都市景観形成重要建築物も入るため写真選択のバランスはよい。

甲斐委員：2頁の上部2つのブロックに文章が記載されているが、横に長く読みにくい。上下二つではなく左右に分ければ読みやすいのではないか。

村上会長：特に2段目がそのように思う。表記の仕方を検討すること。

森本副会長：地図について、写真にあげられている歴史文化遺産がどこに分布しているか確認していた。すべての歴史文化遺産が表示されていた。人によっては写真の位置を表示しておいた方がいいのではないかという意見もあろうが、探すのもいいのではないか。明石市を訪問された人は文化財の位置がわからないと思うが、いったいどこにあるのかと探すのも概要版の形としてある。

村上会長：わかりやすいように写真に番号をつけて、地図に番号を振ることも考えられるが、探して行っていただきたいという意思を込めて番号は表示しないことで良いと思う。

村上会長：3頁について、「明石港からめぐる海からのネットワーク地」は表現を変える方がよいのではないか。

藤本委員：明石港の位置がわからないので、追加してはどうか。

竹内委員：煩雑にならないよう文化財は点で、明石港は面の表示にするとよい。

村上会長：「明石港からめぐる海からのネットワーク地」は「明石港からめぐる海の文化財ネットワーク」とする。

甲斐委員：海から見た文化財とすると、海からの視線を重要視して建造された明石城や神戸市の五色塚古墳も入らないか。

村上会長：鉄道や建築物が視線を遮り、なかなか形にならない。港から出ていくとき灯台のあたりから見た写真など、海からのいい写真はないか、事務局は探してみることに。

- 竹内委員：1 頁について、文字は小さくても写真で勝負する方がよいのではないか。方針を縦にするなど文章のスペースを小さくして、紙面の半分くらいを写真にしてもよいのでは。古い写真があれば歴史を感じさせる。海が入る写真もあれば。
- 村上会長：1 頁目には海から写した写真はレイアウトできないだろう。大手門のあたりからドローンで上がった風景などが綺麗だと思う。
- 甲斐委員：3 頁について3 行目の「明石城下町跡区域」は本文とあわせ「旧明石城下町」にすること。「重点区域を」は表現が重複しているため削除すること。5 地域と重点区域を表した図が横長に引き延ばされているため、修正すること。
- 6 行目について「保全・活用」を本文に合わせて「保存・活用」とすること。
- 「重点区域の歴史文化遺産の保存・活用の14の取り組み」は重点区域に限った取り組みであり、全市に共通する取り組みとして9項目挙げられている。9項目を概要版に記載する必要はないが、とりわけ重点区域には以下の取組を別途設定しましたという説明が必要である。
- 村上会長：取り組みを細かく書いているためスペースをとっている。取り組みは3段程度にまとめて、海から燈籠堂を見た構図などの海からの写真を入れてはどうか。1、2 頁に海からの写真がないため、海からの写真を入れると全体を通して明石が感じられる構成になる。
- 吉田委員：各段落の初めが■ ■となっている。ぱっと見ると文字を隠しているように見え、意味がなければ他の表現の記号にする方がよいのでは。
- 村上会長：最初から文字で始めるのではなく、何かの記号を工夫して用いること。
- 檜原委員：発行年の年表記について西暦（和暦）ではないか。
- 村上会長：市は今どちらを用いているか。
- 吉田委員：今は西暦（和暦）を用いている。
- 村上会長：年表記については、和暦（西暦）を西暦（和暦）とすること。

【議事（3）明石市文化財保存活用地域計画シンポジウムについて】

—資料説明（略）—

- 村上会長：計画が出来上がると、市民へ周知する作業となる。皆様ご協力願う。前もって伝えていたが、具体的な案として今回事務局から提示された。
- 内容について確認しておきたいこととしては、行政サイドの講演者が出ていないことである。
- 事務局：シンポジウムのねらいとして計画の内容を詳しく述べるのは冗長であると判断したが、前段で計画を作った経緯などを説明する。
- 村上会長：第一部の基調講演の前に経過説明をするなど「明石市が計画を策定しました」という部分は必要である。もしくは長めの挨拶という形で説明するなど、これからこうしていきたいという市の気持ちを表明する部分が必要である。
- 竹内委員：あるいはパネリストとして入り、行政側の話を聞きたいときにぱっと受け答えしてもらえれば進行が円滑に進み、安心である。
- 村上会長：基本的に、部長からの挨拶は必要である。そして、パネリストとして市もしくは県の文化財系の方が答えられた方がよい。
- 甲斐委員：県としてはこうした場に出た事例はない。市の担当者が担われるのがよい。
- 事務局：最初の概要の説明については市のしかるべきものが行い、文化財の担当者がパネリストに入ることを想定しながら庁内で検討する。

村上会長：私は「文化財をまちづくりに生かす『明石市文化財保存活用地域計画』」と題して話をする。
森本副委員長は教育に関してお話していただくと役割分担できると思う。シンポジウムの日程が近づいた頃には、事務局からパネラー・コーディネータ等にシナリオ案を送っていただきたい。特に、コーディネーターの竹内委員とは進行等について打ち合わせるようにしていただきたい。

3. その他

事務局：その他については特にない。

村上会長：スケジュールを見ていただくと、これからは国への認定申請作業となる。記者発表等は事務局で作業されるのか。

事務局：事務局で作業する。

村上会長：年が明けると認定の通知が届いている。その後、市民に周知する作業を市と一緒に考えていく。3年にわたっていろいろと議論いただき誠に感謝する。それでは、これで協議会を終了する。

4. 閉会